

報道機関各位

沖縄県立博物館・美術館管理事務所

博物館常設展 復帰50年特別展示

沖縄復帰前展

—希う、未来。復帰 前夜—

沖縄県立博物館・美術館（おきみゆー）は、3月18日（金）から博物館常設展 歴史部門展示室にて、復帰50年特別展示「沖縄復帰前展—希う、未来。復帰 前夜—」を開催いたします（会期8月21日まで）。

今年は、沖縄が日本に復帰して50年の節目の年です。戦後27年の米国統治を経て実現した沖縄の日本復帰は「世替わり」といわれるほど大きな転換点でありました。一方、日本復帰の1972年当時、中高生だった少年少女もすでに60歳を越えています。県民の6、7割は復帰を知らない世代です。その復帰を知らない世代にとって、復帰とは何だったのか、そして復帰を経験した人々は当時何を思い、そして今何を思うのか—。

本展では、平和を希求し復帰・反基地運動を展開した復帰前の沖縄の姿を様々な資料を通して紹介します。

《展示構成》

■第1章 米国施政権下の沖縄

戦後、アメリカ政府は1952（昭和27）年のサンフランシスコ講和条約で正式に沖縄の施政権を獲得すると、本格的な恒久基地建設に取りかかります。「銃剣とブルドーザー」と言われる土地の強制使用は住民の反発を招き、米軍は統治体制を安定化させようとさまざまな施策を実施します。米軍統治下の沖縄住民側の自治機関として琉球政府が創設されましたが、最終権限はあくまで琉球列島米国民政府（高等弁務官）が掌握しており沖縄住民の権限は制限されたものでした。



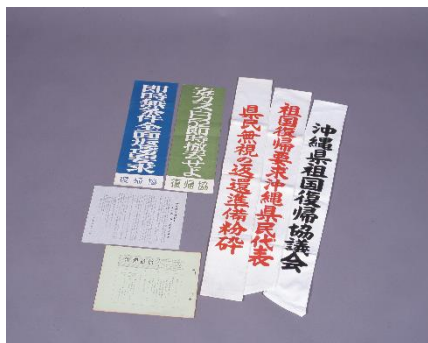
高等弁務官旗



「今日の琉球」「守礼の光」

■第2章 高揚する復帰運動

復帰運動は、当初は素朴な民族主義的な運動からスタートしました。その後は米軍による軍事優先政策や基地建設の強硬姿勢に対して運動も激しさを増していきます。やがて沖縄の復帰運動は県民の闘争のみにとどまらず、国民世論を統一し連帯へと発展していきます。



復帰協関連資料



1964. 08. 15 海上大会で握手を交わす本土からの参加者と沖縄の人々（撮影 嬉野京子）

■第3章 沖縄へのまなざし

沖縄返還は日本の民族的悲願とされ、当時の佐藤首相の訪米による日米交渉が国民の関心を集めました。しかしながら、沖縄の実情まではほとんど知られていない状況でした。一方で渡航制限などがありながらも1960年代には沖縄を訪れる人々が増加し交流します。本章では「日本の中の異国：沖縄」に注目します。

■第4章 沖縄返還交渉 沖縄返還日米合意

1969年11月、佐藤首相とニクソン大統領が日米共同宣言を発表し「1972年中に沖縄の返還を達成する」ことを明らかにし、返還に至までの準備期間には日米間でさまざまな交渉が行われました。四半世紀にわたって続いてきた米軍支配に終止符が打たれることを歓迎する半面、米軍基地のありようをめぐる取り決めに沖縄県民の多くは不安を抱きます。本章では当時の返還交渉の経過など当時の状況に注目します。

【開催概要】

展覧会名：博物館常設展 復帰50年特別展示

「沖縄復帰前夜 — 希う、未来。復帰 前夜 —

会 期：2022年3月18日(金)～8月21日(日)

会 場：博物館常設展 歴史部門展示室

主 催：沖縄県立博物館・美術館

観 覧 料：一般530円、高校・大学生270円、

県外小・中学生150円／県内小・中学生 無料

開館時間：9:00～18:00（金・土は20:00）

休 館 日：毎週月曜日



<お問い合わせ先>

沖縄県立博物館・美術館指定管理者 (一財) 沖縄美ら島財団

企画班 広報営業担当 (福治・金城) TEL 098-941-1232/FAX 098-941-2392